

1 概要

(1) 調査の目的

「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」（実施要領より）

(2) 実施日 平成31年4月18日（木）

(3) 対象学年 第3学年

(4) 実施教科等 国語・数学・英語

①身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関する内容

(5) 質問紙調査 学習意欲、方法、環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

2 実施教科等における全国・埼玉県・狭山市・本校の平均正答率（小数点以下四捨五入）

平均正答率	国語	数学	英語
全 国	73	60	56
埼玉県	73	59	56
狭山市	71	58	56
山王中	68	53	53

3 考察

【国語】

・選択肢の中から記号で解答する問題に対しては、無解答はほとんどないが、指定されてその条件のもとに文章で書いて答える問題に対しては、正答率も県や国の数値がよりやや低くなっている。（問題に対する答えがわからないというよりも同様の答え方を要する学習活動が通常の授業では不足していることも原因の一つと考えられる。）

【数学】

・問題によっては、県や国の正答率を上回るものもあるが、ほとんどの問題において県や国の正答率を下回っている。関数の反比例の表から式を求める問題、数と式の目的応じて変形する問題、図形の合同について理解する問題に対しては、県や国に比べると低く、正答率も低いいため、苦手とする生徒が多くいることがわかる。

【英語】

・聞くこと、読むこと、話すことについては、県や国の正答率の傾向とほぼ同様であり、問題によっては、県や国の正答率をはるかに上回るものもある。外国語の理解や「活用」に関する問題について無解答が多く、県や国の正答率を下回り苦手と思われる。話すことについては県や国の正答率とほぼ同様である。

【質問紙調査】

・「自分には、よいところがあると思いますか？」との問いに対しては、「（どちらかと言えば）そう思わない」と答えた生徒が36%もいて、県や国の1.5倍近くの数値である。数値から判断すれば、自分自身に自信が持たずに、自尊感情が十分に育まれていない生徒の多さを表している。

・「将来の夢や目標を持っていますか？」との問いに対しては、「（どちらかと言えば）当てはまらない」と答えた生徒が40%もいて、国や県の数値を上回っている。

【今後の対策】

・授業改善のため、全教職員が外部指導者を招聘しての研究授業を実施し、生徒の学力向上に寄与できる「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業とUDの視点を取り入れた授業」への改善を進めている。